

企業名：日本電子株式会社

---

レポート名：統合報告書 2021

---

### 1. この会社が目指す姿が理解できるか

統合報告書7P「新たな創造と開発にあたって」における創立70周年を迎えた当社の成長ビジョンでは、成長市場への積極的な参入による事業の展開のイメージが描かれている。また、13Pの「中期経営計画」では更なる成長に向けて主に4つの指標が掲げられており、当社の成長戦略が理解できる。19Pの事業セグメント別概況では具体的な機器の説明や、決算概況、市場の動向だけでなく更なる成長に向けたコメントが記載されている。以上の3項目はページが離れているものの、それぞれに参照ページの記載があるため問題はないと考える。

### 2. この会社の競争優位性が理解できるか

統合報告書19P「事業セグメント別概況」において、電子顕微鏡の開発を起源に持つ当社は、理科学・計測機器を通じ、ノーベル賞受賞者を始め世界のトップサイエンティストや先端研究の開発を支えていることが分かる。統合報告書8Pの「行動様式」においては、当社は理科学・計測機器を中心に様々な分野に装置を提供しており、幅広い製品を作り出していることがわかる。更にこれまで官民を問わず様々な企業・団体・研究機関と提携してきたことで、外部と繋がりを持っており、新たな価値の創出や独創的な製品の開発をおこなってきたことが分かる。これまで培ってきた計測・分析技術を活かし、科学の進歩や社会の発展に貢献しているだけでなく、枠にとらわれない行動様式によって、多様化が進む現代において様々な需要に対応できる点が当社の強みであり、社会に提供している価値だと理解できる。

### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

当社は7Pの成長ビジョンにおいて、半導体・産業機器・バイオ・医療機器を今後の成長市場として定め、積極的な新製品を投入することで企業価値の向上を目指している。21Pでは実際に新製品として金属3Dプリンターの紹介がされており、事業展開の進歩が確認できる。これまで培った技術やノウハウや幅広い分野と繋がりを持つ当社は、新たな領域においても目新しい製品や企業が掲げる問題の解決策を提供することができ、競争優位性の持続性があることが分かる。

### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

当社は理科学・計測事業で築いたコアテクノロジーを中心に、多様化する現代にも対応して幅広い製品を有し、多数の分野に提供を行っている。様々な企業や研究機関といった外部

との強固な繋がりを持っている当社では、従来の光学の技術やノウハウを身につけられるだけでなく、枠を超えた新たな価値を創出することができると思う。したがって、現代の需要に対応し、目新しい製品を生み出すことができる当社では、自身の人的資本の価値向上を達成することができると思う。

#### 5. 報告書にはどのような改善余地があるか

統合報告書を一通り読むことで、当社が目指す姿や競争優位性、その持続を可能にする戦略を理解することができ、更に当社において自身の人的資本の向上が達成できると感じることもできた。しかし、会長メッセージ、社長メッセージ、担当役員メッセージのページは連続しておらず、それぞれの中に当社の成長ビジョン、独特な行動様式、中期経営戦略のページが挟み込まれており、やや見づらい順序になっていると感じた。更に、外部との強固な繋がりを持つ当社の強みを活かした、市場で高い評価を得る他社とのコラボレーション製品に関しては、製品の具体的な紹介はされていなかった。具体例を提示することによって、よりイメージしやすく、また印象に残りやすくなるのではないかと感じた。